

## Countries which have a lot of potential.

隅田 直子

神奈川県立伊志田高等学校

◆担当教科：英語 ◆実践教科：英語Ⅱ・総合学習 ◆時間数：11時間 ◆対象学年：2学年  
◆対象人数：79名・277名

## 指導案

## (1) 実践の目的

昨年の英語Ⅰの授業で地雷問題を取り扱い、さらに今年度の英語Ⅱの授業では児童労働問題を取り扱った。内戦を経て荒廃した開発途上国が抱えている問題は山積みとなっており、復興の過程において避けて通れない大きな問題となっている。開発途上国における児童労働問題は子供の人権や教育機会の確保という課題があるが、その反面その国の経済を支えている重要な労働力という複雑な事情も抱えている。特にカンボジアにおいてはクメール・ルージュ時代の大量虐殺によって社会の中心となるべく世代が極端に少なくなっており、次の世代の手本となるべく人材確保の困難な状況で、地雷や児童労働などの諸問題とどのように取り組むか、という課題と向き合っている。こういった諸問題を生徒達に知ってもらい、途上国の今後について考えてもらう。

## (2) 授業の構成

テキストにある児童労働問題を中心に、昨年度の学習内容である地雷問題と合わせて開発途上国の現状について資料を提示しながら再度考えてもらう。

また講演会を通してカンボジアの歴史や現状について説明をし、カンボジアがどんな課題を抱えているのか、そこに至るまでにどのような歴史をたどってきたのかを学んでもらい、なぜ開発途上国という位置づけとなっているかを考えてもらう。

さらに、国が発展する過程を知ってもらい、開発途上国の可能性について認識をしてもらう。

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	内戦（地雷問題）⇒児童労働の関連と開発途上国の実態について学習	①地雷問題の復習 ・地雷の使用目的の再確認 ・地雷問題を抱えている国の確認 ②児童労働の実態について ③開発途上国の割合について ・世界で何%が開発途上国なのかを確認	プリント
2～9	児童労働の実態（具体数や実際の労働の実態）	① 児童労働の実態について、教科書本文を通して学習 ・児童労働の具体例 ・児童労働問題を知ってもらうための活動 ・具体数 ・児童労働問題の側面 ・労働例 ・児童労働問題を理解するための取り組みについて	プリント テキスト

10	児童労働の実態の確認	①世界人口から見た児童労働の実態 ・年齢別による児童労働の数 ・職種別による児童労働の数 ②児童労働の実態を学んだ生徒の感想	プリント
11	カンボジアの現状を知る	①現在のカンボジアについての講演会 ・具体的な数値や画像を提示して現在のカンボジアを知ってもらう ②講演後にアンケートを取り、生徒達の感想を聞く	パワーポイント プリント

### 授業の詳細

1 時限目：昨年度の学習事項である地雷問題を復習し、さらにそれが児童労働とどう関係しているかを再確認した。また児童労働にはどのようなものがあるか、世界には開発途上国と呼ばれている国がどれぐらいあるのかを、確認した。 [使用教材・・・プリント]

#### ① 地雷問題の復習

☆地雷の使用目的の再確認

- ・人に障害を負わせることで、労働力を奪う
- ・障害を負った家族の介護をするために、家族内の健常者の労働力を奪う
- ・子供が興味を持つような形状にし、それに触れた子供の手足や生命を奪う

☆地雷問題を抱えている国の確認（前年度の授業の復習）

- ・アフガニスタン ・アンゴラ ・カンボジア ・中国 ・コロンビア
- ・モザンビーク ・旧ユーゴスラビア

☆児童労働の実態について

- ・約2億5千万人

☆開発途上国の割合について

- ・世界の国の数、約200カ国中150カ国

2～9時限：あるアメリカ人の少年が新聞記事をきっかけに“FREE THE CHILDREN”という活動をはじめ、その活動を通して、児童労働の実態や開発途上国の抱えている問題点について学んでいく様子を学習していく。 [使用教材・・・教科書／プリント]

#### ① 児童労働の実態について

☆児童労働の具体例

- ・4歳から12歳まで絨毯工場で働かされていたパキスタンの少年が、解放されたあと児童労働解放のキャンペーンを始める。しかし、活動をやめるように警告していた何者かによってその少年が射殺された記事が新聞に掲載される。
- ・この記事を読んだアメリカ人の少年が、炭鉱で重労働をさせられたり花火工場の爆発事故で亡くなった子供たちの存在もあることを知り衝撃を受ける。

## ☆児童労働問題を知ってもらうための活動

- ・児童労働の実態を知った少年が“FREE THE CHILDREN”というグループを結成し、さらに多くの人に開発途上国における児童労働問題について知ってもらう活動を始める。

## ☆具体数

- ・活動を通して世界にはアメリカ合衆国の人口とほぼ同数の児童労働者がいることを学ぶ。

## ☆児童労働問題の側面

- ・活動を続けて行く中で、児童の労働力に頼らざるを得ない途上国の現状を知り、知識の重要性を知る。

## ☆労働例

- ・使用済みの注射器の仕分け。煉瓦工場での労働（自分の祖父の借金返済のための労働）。

## ☆児童労働問題を理解するための取り組みについて

- ・その国の歴史や経済状態を知ること、また貧困について知ることが児童労働問題を理解することにつながっていく。

10 時限目：実際にどれだけの児童が労働に従事しているか、またどんな労働をさせられているか具体的な数字を提示しながら生徒に知ってもらい、同時に自分と違う境遇の子供たちについて考えてもらう。 [使用教材・・・プリント]

《The Circumstances of Child Labor（児童労働の実態）》

World Population ( ):	6 billion 944million
Population of Japan ( ):	[ ] million
Child Laborers ( ) をしている子ども : 【5-17 歳】	246 million = About the population of the United States
Under fifteen years old うち ( ) 歳未満 :	186 million = About the population of Pakistan
Under ten years old うち ( ) 歳未満 :	73 million
Children working in ( dangerous ) and harmful conditions 危険で有害な労働をしている子ども :	171 million
Under fifteen years old うち ( ) 歳未満 :	111 million
Children working in the ( worst ) conditions 無条件に最悪の労働をしている子ども :	8 million 40 thousand
Forced to work・ Working to ( pay ) ( off ) a loan 強制労働・債務奴隷	5 million 70 thousand
Force child soldiers 強制的な子ども ( )	30 thousand

買春・ポルノ	180 thousand
不正な活動（麻薬の製造・密売等）	60 thousand

### 児童労働の例

#### India & Pakistan

There were many children, about 7000, working for the soccer ball industry.

What they did was stitching soccer balls. Money they can get are 10-30yen per ball.

要約 【 】 & 【 】

約（ ）人の子供たちが（ ）産業で働いていました。

彼らの仕事は（ ）で賃金は（ ）でした。

### 児童労働や開発途上国に関する感想・疑問点

#### 児童労働や開発途上国に関する感想・疑問点

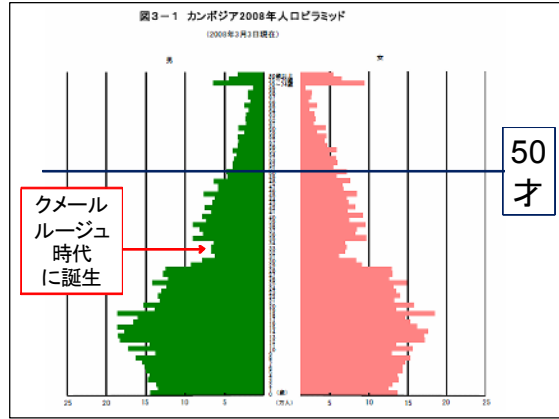
- ☆ある程度読み書きができれば違うと思う。先進国の人たちはお金を渡すよりも、教育をしっかりさせてあげるべきだと思う。
- ☆児童労働をしなければならない子供の親はどんな状況なのか疑問だった。
- ☆我々の購入している物にも児童労働によって製品化されている物があるのは複雑な気持ちだ。
- ☆生活をするために子供たちは働いているわけだけど、お金を稼ぐチャンスを増やすと彼らは豊かになるが結果としては児童労働をさせていることになるので、難しいと思う。
- ☆子供のころから働いている人たちは、自分達が大人になると子供たちに労働をさせるのでそのサイクルがどうにかなればいいと思った。
- ☆日本も地震や津波で大変な状況だが、復興できる技術や経済力もあり恵まれていると思った。
- ☆私たちはまず問題を知ることが大切だと思う。そしてその後でどう行動すべきかが重要だ。
- ☆児童労働がなくなって欲しいと思うが、子供たちが仕事を辞めるとその国の経済に影響が出て別の問題が発生するのを知り、簡単には解決できないと改めて実感した。
- ☆全世界の児童労働者の数が日本の人口よりも多いことはショックだ。
- ☆学校で勉強することが絶対に幸せというわけではないが、労働よりも子供には大事なことだと思うから学校に行けるような環境になるといい。
- ☆児童労働の実態は知られているはずなのに、解決していないのは何故なのか不思議だった。
- ☆子供は働いてくれる道具ではなく、未来のために勉強など学べるものがたくさんある。

- 11 時 時 目：帰国後にカンボジアの現在の状況を中心に、歴史や生活の様子も含めて資料や写真を提示しながら講演形式で自分が実際に見て感じたことを生徒達に発表した。その際、カンボジアという国はマイナスのイメージの強い開発途上国だというだけでなく、確実に復興しつつある、前向きに生活している人のたくさんいる可能性を多く秘めている国だという面についても考えさせた。



人口  
約1340万人  
  
日本の  
約9分の1  
です。

資料 1



資料 2

電化率はまだ**26%**しかなく、  
周辺諸国に大きく遅れをとっています。

ラオス 55%  
ベトナム 89%  
タイ 99%  
(2008年)



資料 3

電気を主要な光源としている世帯の割合  
都市部 87%  
郡部 13.1%

火力発電・ディーゼル発電  
が主要な電力供給源です。

またベトナムやタイから  
購入もしています。

資料 4



**91%**の人が  
料理に使う火を  
薪や木炭から  
得ています。

資料 5



資料 6



生活水準の低さから、  
**児童労働**を余儀なくされる  
子供たちが**5歳～14歳**※  
の**45%**を占めるといわれて  
います。

※5歳～9歳 **10%**  
10歳～14歳 **65%**

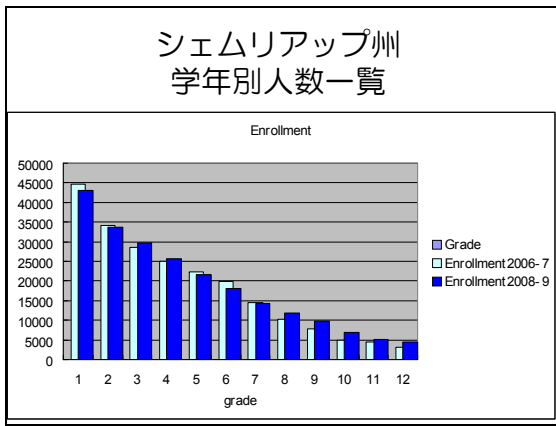
資料 7

小学校に入学する  
子供は全体の  
**99%**ですが、  
小学校5年生まで  
進学する子供は  
全体の**63%**で、  
これはASEAN  
諸国のなかで  
最も低い数字です。



日本では100%の子供が  
小学校5年生まで進学  
します。

資料 8

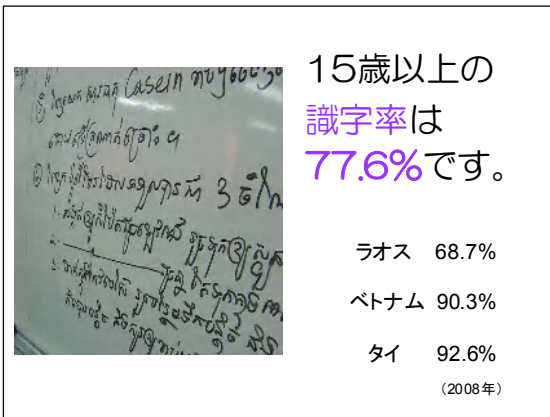


資料 9

☆シエムリアップ州の場合  
小学校1年生を終了した時点で  
一定の基準をクリアしていないと  
2年生に進級できない。

↓  
落第が続くと、10歳ぐらいに  
なると退学をして労働を始める。  
(主に家の手伝い：農業)

資料 10



資料 11

地雷や不発弾の除去作業は  
着々と進んでいます。

2008年までに  
477km<sup>2</sup>に  
わたって地雷が  
除去されました。  
これはカンボジアの  
地雷原の15%  
にあたります。



資料 12

### アンケート集計結果

1. 講演を聴いての感想を聞かせてください。

- ア) 興味深かった ……44.4%
- イ) どちらかというに興味深かった ……41.5%
- ウ) どちらかというに興味を持てなかった ……10.5%
- オ) 興味を持てなかった …… 3.6%

2. 1でア)・イ)と答えた人、どこに興味を持ちましたか？(複数回答可)

開発途上国の現状・地雷問題・日本の援助・カンボジアの文化(食べ物や生活など)

3. 生徒の感想

☆情操教育(体育とか音楽)がないのがビックリ!

☆英語の授業の時に児童労働について勉強したけど、本当に自分よりも年下の子が働いているんだと思いました。

☆識字率が低いのが考えられなかった。

☆毎年何万個もの地雷を取り除いているのにたったの15%しか割合としては取り除けていないということにびっくりしました。児童労働の問題も自分はただ貧しさが問題なだけかと思っていただけ、教育についていけずに自分から労働の道を選択せざるをえなくなってしまうということは初耳で、驚きました。

☆地雷問題や国の現状を聞いて、英語の授業で習ったことよりももっと悲惨な現状なんだと痛感しました。

- ☆地雷→人に傷を負わせて苦しめるなんて最悪だと思った。
- ☆まだかなりの数の地雷が埋まっているとは知りませんでした。早く地雷がなくなって、地雷で傷をおったり、亡くなる人がいなくなって欲しいです。
- ☆地雷や不発弾がまだたくさん残されていて、危険と隣り合わせなのかと思いショックだった。
- ☆地雷の仕組み（火薬の量でどんなダメージを与えるか調整するとか、起爆作動時の重さとか）に興味を持ちました。
- ☆ポル・ポトの支配について、興味を持った。なぜ宗教や文化を否定してまで自分たちが正しいと思っていたのだろうかと思った。
- ☆クメール・ルージュ時代にほとんど無くなってしまった伝統文化を、わずかな手がかりをもとに復活させようとしていたことがすごいと思った。
- ☆もっと外資系の企業を入れることに力を入れるべきだと思った。
- ☆カンボジアは物が不足しているものが多くて日本は恵まれているなって思ったけど、子供たちを見ると楽しそうに見えたので良かった。
- ☆電気が26%しか普及していないのに、ビックリした。
- ☆貧富の差が大きいんだなと思った。
- ☆都市部と田舎の暮らしの違いに驚いた。
- ☆外国から来た人のためにきれいな物ばかり売って、カンボジアの人が買えないとか意味ないと思った。
- ☆トイレがない家が数多くあったり、電気を使えない人がたくさんいることに関心を持ちました。
- ☆自分たちが当たり前に使っているトイレなども、途上国では整備されていないんだなと思った。
- ☆カエルを食べることや雛が入っている卵を食べるとい文化にはとても驚きました。
- ☆スーパーの「武器持ち込み禁止」という標識には驚いた。



## 成果と課題

教科書でとりあげる話はひとつの視点で展開することが多いため、生徒達はその他の局面について考えるチャンスが少なくなってしまう。たとえば、テーマに児童労働問題が取り上げられていれば、日々の食料にも困る貧しい開発途上国の人々の話であると思いついてしまい、子供達が可哀想であるとか、募金活動を積極的にしようとか、子供達を哀れむことに視線が向いてしまうことが多い。

しかし、今回私自身が自分の目で見てきたことを生徒達に伝えられたことで、開発途上国の抱えている貧困問題や経済問題は、原因や現状についてはどこも同じというわけではないということに気がつくのと同時に、必ずしも開発途上国には可哀想な子供達ばかりいるわけではない、ということも感じ取ってくれた。生活や教育に関してはまだまだ問題は多く残されているが、子供達が明るく元気に過ごしている様子や街の開発が進みつつある状況を見て、生徒達も希望を感じてくれていた。

今後の課題としては、開発途上国が復興していく上で具体的に先進国（自分達）はどんな援助ができるのか、また途上国自身はどんなことをしていかなければならないのかという点に着目させ、さらに開発援助という点についてより深く考えてもらえればと思っている。

### ◆ 参考資料

JICA カンボジア ホームページ

「カンボジア事情 はやわかり 来て、見て、感じて カンボジア!!」

[http://www.jica.go.jp/cambodia/office/others/pdf/situation\\_01.pdf](http://www.jica.go.jp/cambodia/office/others/pdf/situation_01.pdf)

シェムリアップ州教育青年スポーツ局派遣 シニアボランティア 伊藤明子氏 資料

カンボジア政府統計能力向上計画 「カンボジア2008年人口センサス確報結果 主要指標」

ILO 駐日事務所 ホームページ

「児童労働の実態」

<http://www.ilo.org/public/japanese/region/asro/tokyo/ipecc/facts/numbers/index.htm>

文英堂 「New Edition UNICORN ENGLISH COURSE II」

LESSON 3 “FREE THE CHILDREN”

文英堂 「New Edition UNICORN ENGLISH COURSE I」

LESSON 7 “ONE STEP BEYOND”

